

加瀬みきの ワシントン発 グローバル随想



イラスト・題字：長峯亜里

第24回

25億人を熱狂させる クリケット

アメリカチームの快挙

クリケットのアメリカチームが画期的な勝利を得、大きな話題となっている。この6月、アメリカが共同ホスト国となり20チームが参加したトゥエンティー・トゥエンティー(T20)ワールドカップでアマチュア集団のアメリカチームが世界トップのプロチームを倒したのだ。まるでWBCワールド・ベースボール・クラシックでアマチュア集団のチェコチームがアメリカチームに勝利したかのような快挙である。

日本同様、アメリカでクリケットを知る人は少ない。アメリカの人気スポーツはバスケットボール、アメリカンフットボール、野球で、クリケットは超マイナーである。しかし、1896年の近代オリンピック開始の50年も前の1844年にアメリカ対カナダのクリケットの試合が行われている。



バッツマンの後ろのウィケットに球が当たり上の方にのっている小さな横木が落ちればアウトになる(ワシントン初のプロチーム Washington Freedom 提供)

1751年にはすでにクリケットの試合が新聞報道され、3年後にベンジャミン・フランクリンが英国からクリケットの公式ルールブックを持ち帰り、北米で正式にルールが定められた。リンカーン大統領も試合を観戦する人気スポーツであったがその後、徐々に陰を潜めてしまった。

2028年ロス五輪の公式種目に

しかし今回の快挙をきっかけにアメリカで人気復活するかもしれない。なんとといってもクリケットは2028年のロサンゼルスオリンピックの公式種目に選ばれている。クリケットのファン数は全世界で約25億人、サッカーの35億人に次いで多い。ちなみにバスケットは22億人、野球は5億人である。競技人口は3億人とサッカーより多い。

そもそもどんなスポーツだろう。野球に近いというのが一番簡単な説明だが大きく違う点もあ



2人のバッツマンがピッチの両端に立っている。打者が打つとそれぞれピッチを往復し、ピッチを走った回数が得点になる